

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

節分 せつぶん・・・冬の季語である。節分の翌日が立春で「春」。春は立夏の前日までである。

< 俳句豆知識 >

「連歌」と「俳諧の連歌」の違いは「雅」と「俗」の違いである。滑稽俳句協会報の最新号に掲載した「違いの見本(八木健作)」を転載すれば・・・

連歌と俳諧の連歌の違いを見せてよ
これなんか代表的だな、ははん、俺が作った即興だが・・・まず連歌では・・・
うめさきてにほひをこぼすいけのはた
みのものひかる かぜのまにまに
ふなべりのておけをとりてみずをくむ
をとめのほほにあさひさしかく

- ・連歌は・こんな風に・・・上品だよ
俳諧の連歌ではぐんとくだけで・・・

梅の香の零れ落ちたる縁の先
うぐひすもまた糞をこぼせり
不倫てふ噂ふりまくカップルを
照らし出したる有明の月という具合だね
なるほど 俳諧の連歌は「俗な内容を俗なことばで詠んだ」ということですね

< 名句鑑賞 >

春愁やガスの(炎)の丈ちがふ(岡本眸)

俳句は哀しみや憂鬱を詠うものだから・・・こんなことを書く。
これが 楽しくて・・・だと詩にならない 春楽しガスの(炎)の丈ちがふ

< 滑稽の作法 >

秋田小町コシヒカラせて稲を刈る(健)
上品な色気をねらった作品である。

ついでながら「未摘花」について記す。
川柳は俳諧の連歌から生まれたことは以前に書いたが川柳を集めた句集、『柳多留(やなぎだる)』に「卑俗で滑稽(こっけい)な恋の句」を集めたものがある。それが「未摘花」である。「蛤(はまぐり)は初手(しょて)赤貝(あかがい)は夜中(よなか)なり」など卑猥(ひわい)ながらも、軽妙な滑稽感にあふれた佳句

「滑稽俳句協会報」から

竹婦人ちやんと名前が付いている(彦阪義久)
竹夫人 ちくふじん 抱き籠のこと 夏の季語

< 八木健の 365 句 >

折れば血の出さうな色の寒椿

< 山口誓子の 365 句 >

鬼やらふにも何といふ海の暗さ

愚陀佛庵通信 10-02-07

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

春告草 はるつげぐさ 「梅」の別名である。

なお鶯(うぐいす)を「春告鳥」と呼ぶ いずれも季語である。

< 俳句豆知識 >

俳句には季語がある。ただし 季語を使えばよい というのではない。

季節の到来を喜ぶ心が滲み出てこそ 俳句における生きた季語となる。

・ ・ 「小さい秋見つけた」の気分になれば「誰か」に知らせたくなるはず。

見つけておどろき ・ 知らせたくなる季節の変化を書く ・ ・ と考えればろしい。

< 名句鑑賞 >

かたくりは耳のうしろを見せる花 (川崎展宏)

花のかたちが「耳のうしろ」のように見える。

言われてみればその通りだが 俳句にできないでいる。

< 滑稽の作法 >

地口(じぐち)(洒落)の句は ナンセンスこそ よろしい

しょうがない奴でも生姜掘るでしょうが(健)

「滑稽俳句協会報」から

古時計振子も伸びる暑さかな(高田敏男)

< 八木健の 365 句 >

扇風機談判の座に首を振る

< 山口誓子の 365 句 >

夜を帰る枯野や北斗棒立ちに

【お知らせ】

本日 南海放送ラジオ 午後1時から3時まで 萬翠荘から公開ナマ中継
「ラジオ・シンポジウム 萬翠荘物語」お近くの方は会場にお越しください。

出演：犬伏武彦・大学教授 渡辺俊夫・東京久松小学校校友会 玉置泰
萬翠荘ファン 八木健・萬翠荘館長ほか

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

山笑ふ・・・山の木々には芽が解きはじめる春の山を擬人的な表現で「山笑ふ」と言う。
ちなみに夏は「山滴る」 秋は「山粧う」冬は「山眠る」と言い。いずれも季語。
中国の漢詩集『臥遊録』の「春山淡冶にして笑ふが如く、夏山蒼翠にして滴るが如く、
秋山明浄にして粧ふが如く、冬山慘淡として眠るが如し」という一節からとった。

< 俳句豆知識 >

歳時記 さいじき。

「歳時」は、「四季折々」というほどの意味。

元来は国や地方または各種団体の年中行事の事柄をまとめた書物を言う。

今では俳句の季語・季題をまとめたもの。

四季の風物や動植物、衣食住などの生活、年中行事などが季節ごとにまとめられている。

俳句づくりには「歳時記」は欠かせない。最近は電子辞書に収録されているので。電子辞書を持ち歩く俳人が殆どである。

< 名句鑑賞 >

蛙の目越えて漣又さざなみ (川端茅舎 かわばたぼうしゃ)

写生の名句・・・寄せ来る波に目をあけたままの蛙を見て驚いたのである。川端茅舎は、
花鳥諷詠を唱えた虚子に「花鳥諷詠真骨頂漢」と評価されるほどの写生上手。

< 滑稽の作法 >

ハンカチの持主を問ふ 枯野かな (健)

枯野(彼の)の地口であるが、単なる洒落にとどまらず描かれた風景に「詩」があれば
それなりの俳句・ひと粒で二度美味しい句となる。

「滑稽俳句協会報」から

マジシャンのさりげなく吐く葡萄種 (永島唯男)

手さばきに気をとられていると・・・全部食べられちまうぞ

< 八木健の 365 句 >

落ちてくる滝の水束ほどけつつ

< 山口誓子の 365 句 >

芽ぶく木々暮れて枯木と異ならず

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

白梅は二月紅梅は三月の季語。

歳時記によっては 紅梅白梅ともに二月の季語とするものもある。

「白梅」は「しらうめ」とも「はくばい」とも読む

< 俳句豆知識 >

歳時記は読み物である。季語の解説が詳しく書かれている。
電子辞書にも季語はあるが解説は簡略に書かれているので、電子辞書だけでは季語についての知識は不足してしまう。
歳時記には民俗学辞典のように読んで楽しい書物である。

< 名句鑑賞 >

パンにバタたつぷりつけて春惜しむ（久保田万太郎）
春惜しむ・・・は、春が去ってしまうことを残念がるのではなく、残り少ない春を満喫することとして季語を作者は生活の中で実感しているのです。

< 滑稽の作法 >

鍋底の蒟蒻隠れておでんかな（健）
「おでん」は伊予弁で「出ない」の意味。掛詞 かけことば として使った。

「滑稽俳句協会報」から

木の実降る時折枝も落ちてくる（加藤賢）
誰かが登ってるんだね。しまいに人間が降る ああ

< 八木健の 365 句 >

押しあいへしあいわさび田のわさびたち

< 山口誓子の 365 句 >

活けし梅一枝強く壁に触る

【お知らせ】

三重県の伊勢市で開催の「全国俳句大会」（八木健司会のトークショー）の様子をご覧ください
ただけます。

出演 有馬朗人(国際俳句交流協会会長・元文部大臣)
宇多喜代子(現代俳句協会会長) 星野椿(高濱虚子の孫)
宮田正和(三重県俳句協会会長)

二時間弱の番組ですが・・・「俳句の真髄」にふれることができます。
下記のアドレスをご覧ください。

<http://www.pref.mie.jp/MOVIE/detail.asp?con=2878>

愚陀佛庵通信 10-02-12

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

風船 春の季語である。元来は「紙風船」五色の紙を張り合わせたもの。
冬の寒さから解放されて戸外で遊ぶ子らの楽しみ。
紙風船は明治の中ごろから作られた。最近ゴム風船 ビニール風船ができて 季節感が失われつつある

< 俳句豆知識 >

歳時記と季節 俳句の季節は旧暦による・・・

春は立春2月4日から 立夏の前日5月5日まで
夏は立夏5月6日から 立秋の前日8月7日まで
秋は立秋8月7日から 立冬の前日11月6日まで
冬は11月7日から立春の前日2月3日まで
私たちの生活感覚と一ヶ月のずれがある。

<名句鑑賞>

白魚汲みたくさんの目を汲みにけり（後藤比奈夫）
シロウオ・・・と読む スズキ科の魚。透明で5センチほど。
食用にする。愛媛では岩松川のシロウオが知られる。
なお、シラウオはハゼ科で全く別のものだが、愛媛では「シロウオ」を「シラウオ」と呼ぶ。掲出句は「目」を汲んだとして、シロウオの透明感を強調した

<滑稽の作法>

節分やうぶな青鬼赤くなる 節分を接吻と・「地口」の句。

「滑稽俳句協会報」から

倒れても弓矢はなさぬ案山子翁（笠 政人）
死んでもラッパを放さなかった木口小平のような

<八木健の365句>

音量調節絶対不可能蝉時雨

<山口誓子の365句>

かの雪嶺 信濃の国の遠さ以て

愚陀佛庵通信 10-02-13

<季語の蘊蓄(うんちく)>

修二会 しゆにえ 奈良東大寺二月堂で行われる
2月1日から 14日間行われる行事のことで、特に 昨夜 2月12日夜の籠松明と
13日 今朝午前2時頃行われる お水取り が知られている。

<俳句豆知識>

歳時記の使い方ですが 俳句をつくる際に歳時記の例句を真っ先に読む人がいますが、あれは駄目です。例句が脳にインプットされて模倣してしまいがちです。
すくなくとも 例句より優れた作品はできません。
また 例句がかならずしも 良い句とは言えない場合があります。
編集者が弟子の句をたくさん載せるからです。歳時記を売るために・・・

<名句鑑賞>

永き日のにはとり柵を越えにけり（芝不器男）
愛媛県松野町出身の俳人 若くして亡くなった。俳句は 読者参加型の文芸・・・
ということを説明するのに好適な句。
見たままを書いて、読者が想像をふくらませることができる。

<滑稽の作法>

豆井戸に落ちて人魚となりし夏(健)
現代俳句の難しい奴と間違えない・・・ようにしてね
人魚を英語でマーメイド ということから 豆井戸 です

「滑稽俳句協会報」から

踊りつつ抜ける頃合ひ目で知らず(務中昌己)
青春の一ページが昨日のここのように・・・

<八木健の 365 句>

かあちやんがごちやごちやゆうとる夏の朝

<山口誓子の 365 句>

雪吊の役終りても緊解かず

【本日のこと】今夕・・・35年前にNHKで数年間、私が担当していた音楽番組のDJたち(三組6人)と熱心なリスナー・当時中学高校生で今はオジサンになった方々の会「Fリクの会」がある。私は最近、手帳を紛失してこういう約束事のスケジュールが全くわかりません。今日のことでも 能智星悟君からの確認の電話で判明しました。能智星悟君は県庁前のホワイトデンタルの歯科医師ですがシンガーソングライターです。本日の萬翠荘コンサートに出演します。

愚陀佛庵通信 10-02-14

<季語の蒞蓄(うんちく)>

東風 「こち」と読む。春は東からやわらかな 風邪が吹く。
強い場合は「強東風」(つよごち)と呼ぶ。
冬は北から 夏は南から 吹くものと相場が決まっている。

<俳句豆知識>

俳句は 拗音(ようおん)を小さく書くことはしません。「ひつばる」「びいひやら」拗音とは、日本語の音節のうち、「キャ」「シュ」「チョ」「クワ」のように二字の仮名で書き表すもので元来、日本語にはなかったのです。
ただし、外来語は「小さい文字」を使います。キャッチボール

<名句鑑賞>

一つ根に離れ浮く葉や春の水 (高浜虚子)
水面に浮いている葉を見て「根はひとつだが茎は複数で先端の葉が離れている」
・・・ことに気づいたのだ。気付いた過程を書いて、離れ浮く葉の根は一つ春の水・・・
としたら、「一つ」が強調されて理屈の句になるから「浮く葉や」としたものであろう。

<滑稽の作法>

わたくしは櫓(そり)ですどうもすいません
駄洒落は思いついたら とりあえずメモしておく。
この句はアイムソリー ということだが

「滑稽俳句協会報」から

敬老日口だけ達者といはれけり（有富洋二）
寝たきりになってやる・・・と脅したんだらう

<八木健の 365 句>

大花野根に毒もつといふ花も

<山口誓子の 365 句>

ゆく雁の眼には見えずしてとどまらず

愚陀佛庵通信 10-02-15

<季語の蒞蓄(うんちく)>

絵踏 えぶみ 徳川時代にキリスト教を禁じたとき信者でない証を立てさせるため長崎奉行所などで「踏絵」をさせた。今も頻繁に俳句に詠まれている。
絵踏なき世の片隅に神恐れ（副島いみ子）

<俳句豆知識>

俳句は分かち書きをしません
ではない となります。
間隔を置くと unnecessaryな部分に「切れ」が生じてしまう恐れがあるからです

<名句鑑賞>

ちるさくら海あをければ海へちる（高屋窓秋）
「あをければ」は、青いので・・・というほどの意味。さくらのはなびらを擬人化しています。 はなびらの白と海の青を対照的に描いていますね。

<滑稽の作法>

そばかすの女(ひと)立つそばの花のそば(健)
そばづくしである。俳句で「女」は 既婚である。この句の女は 40 代後半と思われる。日焼けして・・・肌の手入れは滅多にしないが、多少のそばかすは純朴で健康的である。という具合に 登場人物をあるていど具体的にイメージするとつくりやすい

「滑稽俳句協会報」から

眠れない不況和音の虫の宿（高橋真紀子）
虫の声を騒音として、季語の本意を裏切るところがいい

<山口誓子の 365 句>

梅見よや生きむとしたる敵降る

愚陀佛庵通信 10-02-16

<季語の蒞蓄(うんちく)>

蒨草 ほうれんそう

ペルシャから伝来したことに由来する。野菜の中でもっとも難しい漢字。春の季語となっている。

< 俳句豆知識 >

旧仮名と新仮名について

俳人の多くは旧仮名(歴史的仮名遣い)で書いたほうが俳句らしくなるとして旧仮名を好む。「そう言えば」を「さう言へば」と書く。辞書には併記されているから簡単に知ることができるが、最近のこと愛媛大学の句集「愛大俳句」の編集担当の猿渡仁さんが「旧仮名に変換するソフト」について教えてくれた。

<http://yasuda.homeip.net/misima/misima.html>

「テキスト入力」に20句を貼りつけて「変換」をクリックすればOK

< 名句鑑賞 >

狡休(ずるやす)みせし吾をげんげ田に許す(津田清子)

小学校の教員をしていた頃の句。

電車の窓から「げんげ田」(れんげ田)を見て脳裏をよぎったのは「学校へ行くのをやめてげんげ田で遊びたい。俳句をつくりたい」ということだった。実際はそんなことをしなかったが。脳裏をよぎったことを、実際にあったように書く。それが俳句なのである。

< 滑稽の作法 >

蝉殻を脱ぎつつあればセミヌード(健)

蝉が殻を脱ぐのはヌードになること・脱ぎかけ・セミヌードだ。

という思考の過程を経て一句となる

「滑稽俳句協会報」から

子一人にじじばば四人七五三(種谷良二)

「評」少子化で、ちやほやされて・思い上がるんだね

< 八木健の365句 >

殻透けし蝸牛隠しごとならず

< 山口誓子の365句 >

如来出て掌に受け給ふ枝垂梅

愚陀佛庵通信 10-02-17

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

昨日のメルマガに・読者からの投稿。以下

「ままこのしりぬぐい」は、もっと酷いです。

雀の鉄砲、烏(からす)のえんどう、などは、可愛い名前を貰いましたよね。

昔の人は自然を本当によく観察していたのデスね！ ひがし愛さまより

註「ままこのしりぬぐひ」継子の尻拭。道ばたに咲く。なんとも強烈な名前。

茎や葉の裏には下向きの鋭いトゲがある。ちょっと手で触っても痛い。

こんなもので尻を拭いたらさぞや痛いだろう。継母はそれほど継子が憎いのか。

< 俳句豆知識 >

俳句には季語が必要です。

季語は現代ではひとつだけ使うように指導されます。

それは季語が句の中心のテーマなので 複数の季語があると句の焦点が定まらないからです。複数使う場合は 同じ季節であること。中心の季語が明確であること が必要です。

< 名句鑑賞 >

乳房やああ身をそらす春の虹（富澤赤黄男 とみさわかきお）

虹の曲線に身をそらす女体を連想したのである。

そしてその女体に乳房が。

連想の帰結に乳房がある。赤黄男は「我流・自己流」がいいとし、

定型は中味の必然において生まれる形式とし、季語無用論を主張。その俳句作りから「難解である」と言われた。愛媛県八幡浜市保内町出身で俳句史に輝く存在である。

< 滑稽の作法 >

モーグルと言へど潜らぬスキー板（健）

冬季五輪にふさわしい一句だが 数年前の作。

駄洒落は滑稽のはじまりであることよ

「滑稽俳句協会報」から

足湯てふ混浴ぬくし草津の湯（飛田正勝）

混浴も足湯ぐらいが丁度よい年齢か

< 八木健の 365 句 >

肩の蠅家来のやうについて来し

< 山口誓子の 365 句 >

凧(たこ)の糸晴天濃くて見えわかぬ

愚陀佛庵通信 10-02-18

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

黄水仙 きずいせん

春の季語である。野生の日本水仙は 12 月ぐらいから咲くから冬の季語になっている。

黄水仙は外来種で春に咲くからである。

< 俳句豆知識 >

俳句で大切なものに・「切れ」がある 「切れ」をつくるために「切れ字」を使う。と良く切れる「や」「かな」「けり」が代表的なものである。

古池や 蛙飛び込む水の音（芭蕉）

春の海ひねもすのたりのたりかな（蕪村）

菜の花の黄のひろがるにまかせけり（万太郎）

< 名句鑑賞 >

雀子や走りなれたる鬼瓦（内藤鳴雪 小）

「雀の子」は春の季語である。鬼瓦の「厳しい」顔をものともせず走り回る子雀の無邪氣。その対照的なところがユーモラスである。滑稽句に分類してよしい。

< 滑稽の作法 >

兼題の栗に苦吟のイガ痛む イガ は「毬」で「胃が」とかけている。俳句としては「カタカナ」にせず

兼題の栗に苦吟の胃が痛む としたほうがよい

「滑稽俳句協会報」から

むかご飯滋味あるものは主張せず（百花草）

確かに薄っぺらな奴ほど喧しいね

< 八木健の 365 句 >

三匹の亀の子のみて同じ顔

< 山口誓子の 365 句 >

ゆく雁の眼に見えずしてとどまらず

愚陀佛庵通信 10-02-19

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

紫雲英 げんげ 蓮華草 れんげそう のことである。

紫雲英は漢名。紫の雲がたなびくように見えることが名の由来。一般的には蓮華草のほうがわかりやすい。今では・・・俳人だけが使う呼び名である

< 俳句豆知識 >

代表的な切れ字に「や」「かな」「けり」があると昨日、書いた。実は「切れ字」は、全部で 18 ある。「かな・もがな・ぞ・よ・や・つ・へ・いかに・り・けりし・か・せ・れ・ぬ・ず・じ・らん・」である。

しかし、切れ字がなくても「切れる」ので 覚える必要はない。

もし覚えたければ八木健がつくった短歌・「蚊帳へつりけり烏賊(いか)にもがな濡れずぞ世辞知らんかな」これをすべて平仮名で書くと 18 の切れ字になる。

意味は・・・「漁師が烏賊を釣ってきた、その烏賊に蠅がとりつくのをふせぐために妻が蚊帳の中へ吊りさげた。

そのときに烏賊がぬれていて雫がたれるので拭いてから吊る。だから濡れない。

黙ってその作業をする純朴な妻よ」である。

< 名句鑑賞 >

春の雲貨車に積まれし牛の瞳(め)に(成瀬櫻桃子)

この句は、二通りに解釈できる。ひとつは 春の雲が牛の瞳に映っている。

と瞳を鏡に見立てたとする。今ひとつは 牛を擬人化して 春の雲を見ている売られてゆく牛の哀しさを描いたとするもの。

<滑稽の作法>

台風のあとの一家のお片付け（健）
台風一過・・・のパロディーである。が、風景は見える。
明るさのある一句となっている。

「滑稽俳句協会報」から

笠脱げば老でありたり風の盆（田代青波）
可笑しいが哀しい　どんでん返しですな

<八木健の 365 句>

抱かねばならぬコスモス括るには

<山口誓子の 365 句>

土手を外れ枯野の犬となりゆけり

愚陀佛庵通信 10-02-20

<季語の蘊蓄(うんちく)>

熨斗 のし（春の季語）
鮑(あわび)の肉をはももので薄くはいで干し、それを台の上で延ばしたもの。
延ばすは年齢が延びるに通じ縁起(えんぎ)がよいので正月の祝いものにつかった。
またおめでたの贈り物に 熨斗一本を紙に包んで水引をかけて品物に添えて贈った。

<俳句豆知識>

「や」「かな」などの「切れ字」がなくても 切れる・・・芭蕉はすべての文字で切れるとした。具体的に言えば「古池や 蛙とび込む水の音」は「古い池 蛙飛び込む水の音」のところで切れるということですね　でちょっと間を置いて読むとそのことが理解できますね

<名句鑑賞>

春ひとり槍投げて槍に歩み寄る（能村登四郎）
俳句豆知識でのべた「切れ字」がなくても切れる例　となる句である。
春ひとり 槍投げて槍に歩み寄る 槍投げの練習。その 孤独を詠ったもの。

<滑稽の作法>

チルドレンとは冷凍会社の阿波踊
「なんとか連」のひとつとして加わったら可笑しいなあと思ひましてね。

「滑稽俳句協会報」から

OFF ONのボタンで終る冬仕度（小杉 隆）
エアコンを暖房に切り替えて冬仕度完了

<八木健の 365 句>

外套のどこかに携帯電話鳴る

< 山口誓子の 365 句 >

出であひし芝火の焰顔たれず

愚陀佛庵通信 10-02-21

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

若布 わかめ 和布 とも書く 春の季語である。

和布は一年草で この時期が句である。

< 俳句豆知識 >

俳句を簡単に学びたい方は最初に「切れ」を覚えるべきなのです。「切れ」こそが俳句の特徴だから。川崎展宏さんは、俳句の大会では、最終的に「切れ」の有無。しかも「切れの明確な句」を選ぶ。とのことだった。私は 愛媛大学で「俳句学」の講師をしているが、試験問題を出すときは、かならず「切れ」の場所をを問うことにしている。たとえば・・・下記の句でどこが「切れ」ですか・・・？

泉の底に一本の匙夏了る	飯島晴子
瀧の上に水現れて落ちにけり	後藤夜半
やれ打つな蠅は手をする足をする	小林一茶
おそるべき君等の乳房夏来る	西東三鬼

< 名句鑑賞 >

生涯は一度落花はしきりなり(野見山朱鳥)

俳句は基本的に自身の精神の記録である。

簡単に言えば「何を思ったか 感じたか」を書く。

「花」は俳句では「さくら」のこと。

散るさくらを見て生涯は一度しかない・・・と思ったのである。

< 滑稽の作法 >

クツワムシ裸足のアベベのやうにかな(健)

オリンピックのマラソンで二大会連続優勝したエチオピアのアベベは 裸足で走った。日本の靴メーカーがスポンサーになったのだが 靴は無視したのだ。この句には季語が 轡虫(秋) 裸足(夏)とふたつある。

「滑稽俳句協会報」から

両の乳双子に顔つ豊の秋(可知豊親)

母性の恍惚の風景と見ました・・・健康的でよろしい

< 八木健の 365 句 >

かまくらの内装工事尻を出し

< 山口誓子の 365 句 >

春の日の晩照のなかになほ勤む

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

耕 たがやし 冬の間手入れをしなかった
田畑の土を鍬(くわ)でひっくり返してほぐしてやること。
「田返し」が「たがやし」となった。

< 俳句豆知識 >

昨日の続き 回答 「切れ」は のところす
泉の底に一本の匙 夏了る
灌の上に水現れて落ちにけり
やれ打つな 蠅は手をする足をする
おそるべき君等の乳房 夏来る

< 名句鑑賞 >

春の水とは濡れてゐるみづのこと (長谷川権)
濡れていない水があるのだろうか・・・濡らす側のものを「濡れる」としたところが意
表をついておもしろい
面白いだけでなく 「春」の季節感が横溢する。

< 滑稽の作法 >

秋田小町コシヒカラせて稲を刈る
「秋田小町」でつくろうとしたら 若い女性が稲を刈る風景を思った。
偶然、「コシヒカリ」が浮かんだ。米の品種名を借りて艶のある句となった

「滑稽俳句協会報」から

水上り鴨は木沓(きぐつ)になりすます(田代青山)
・・・なるほど・・・蹴鞠(けまり)をやらせてみたいね

< 八木健の 365 句 >

席はづすやうに蜻蛉(とんぼう)とび去れり

< 山口誓子の 365 句 >

沖までの途中に春の月懸かる

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

末黒の芒 すぐろのすすき 早春に土手などの枯草を焼いたあとに 先端を焼かれた
ススキが伸びてくる。そのススキをいう

< 俳句豆知識 >

俳句で切れをつくるのは その部分を強調する 詠嘆する つまり大切な部分ですよ
という意志表示なのです。

焼芋や 紙の袋を踊り出る
踊り出る紙の袋や 焼芋の
踊り出る 焼芋紙の袋より

それぞれ の前の部分を強調しています。しかし、作者は「焼芋」を言いたかったはず
です。読むときに「焼芋や」を大きな声で、そのあとは小さな声で読めば 切れの意味
が明確になります

<名句鑑賞>

春の灯や女は持たぬのどぼとけ（城日野草）
女性には喉仏がない・・・男女差を感じたままに書いた。
女性蔑視ととられなくもないが、女性の弱さへ 憐憫とも

<滑稽の作法>

電柱でござると威張り寒鴉 松の廊下・・・の殿中のパロディーです。

「滑稽俳句協会報」から

風力であいさつエコな秋桜（山下正純）
環境にやさしいが過剰な挨拶

<八木健の 365 句>

書初の初日の光はみ出せり

<山口誓子の 365 句>

双眼鏡遠き薊(あざみ)の花賜(たば)る

愚陀佛庵通信 10-02-24

<季語の蘊蓄(うんちく)>

暦の上では・・・というのが俳句は旧暦なので生活感覚から一ヶ月ほどずれる。
春は2月4日(立春)から 夏は5月6日(立夏)から
秋は8月8日(立秋)から 冬は11月7日(立冬)からである。

<俳句豆知識>

俳句は瞬間を詠みます。
拙句に 風止んでをりぼうたん(牡丹)ゆれてをり・・・がある。今、風は止んでいるが、
牡丹(ぼたん)は、ゆれている。風が止んだ瞬間を詠んだのである。

<名句鑑賞>

ままごとの飯もおさいも土筆(つくし)かな（星野立子）
俳句は「発見したこと」を書く。作者は「幼児」がままごとをしているのを見て、発
見をしたからである。それは作者の意識にある「常識」を裏切られたからである。そ
れが発見。

<滑稽の作法>

野分晴音にするならあつけらかん（健）

野分(のわき) 台風のことである。暴風が野の草木を分けてゆくからである。台風一過の空は雲ひとつない。それは「あつけらかん」である。広辞苑には「あつけらかん」は「事の意外さにあきれてぼかんとしたさま。少しも気にせずにくるりとしたさま」とある。作者はあつけらかん・・を音として作句したのである。

「滑稽俳句協会報」から

篤姫がここにも居りぬ菊花展（山本 賜）
至るところ篤姫に便乗の秋

<八木健の 365 句>

シャワー浴ぶ祈るかたちに立ち尽くし

<山口誓子の 365 句>

麗しき春の七曜またはじまる

愚陀佛庵通信 10-02-25

<季語の蘊蓄(うんちく)>

比良八講 ひらのはっこう

大方の歳時記に出ているから良く知られた季語なんだろう。

2月24日は菅原道真の命日。近江の比良明神で行った法華八講は菅原道真の遺徳を偲んだものである。この頃は荒天が多く琵琶湖では航行不能になる。比良八講の荒れ・と言う季語もある。

<俳句豆知識>

またまた「切れ」について・・思い出しました。

俳句の「切れ」は、その部分が強調されるのだから「一箇所」だけがいい、だから「切れ字」もひとつだけ。とされます。

複数使うと句の中心がわからなくなる。ところが例外がある。

春や昔十五万石の城下哉（子規）

この句は「や」「哉」と切れ字がふたつ使われている。

それは・・ふたつ強調したかったからなのです。

春だなあ・・かつては十五万石の由緒ある城下町だなあ

<名句鑑賞>

ふだん着でふだんの心桃の花（細見綾子）

「とりあわせ」の句である。「ふだん着でふだんの心」は「桃の花」と作者の心のどこかでつながっている。床の間に桃の花の一枝を活け終わって眺めている。贅沢なんかできなくとも、こうして桃の花を生けて、桃の花のように優しい気持で・・と。

<滑稽の作法>

紅葉且つ散る樹木にもながら族

「紅葉」は秋の季語。

「紅葉散る」は冬の季語。さて「紅葉且つ散る」の季節は？
ということになる。「秋の季語」である。・・紅葉の盛りである。
よく見ると散り始めている。・・紅葉しながら散りは始めている。
ゆえに「ながら族」である。滑稽は「ながら族」という俗語を使ったこと。
季語を掌に載せた。というところにある。

「滑稽俳句協会報」から

魚心秘めて御歳暮届きけり（有吉堅二）
水心もてしまひ込む歳暮かな・・・ということになりますね

<八木健の 365 句>

失踪の前歴のあるかぶと虫

<山口誓子の 365 句>

春潮やわが総身に船の汽笛(ふえ)

愚陀佛庵通信 10-02-26

<季語の蘊蓄(うんちく)>

薄氷 うすらい 春の季語である。ごく薄いものである。
初氷は冬の季語で薄氷より厚味がある。だから薄氷は踏みつけて割ったりはしない。
初氷は手にとって割ったりする。

<俳句豆知識>

昨日の続きですが、「春や 昔十五万石の城下哉」は「や」で切って読む。
多くの方が勘違いして、「春や昔 十五万石の城下哉」春や昔・・・と昔で切って読む
があれば間違い。これも昨日の続きだが、切れ字を複数使った句に
降る雪や明治は遠くなりけり(中村草田男)がある。
「切れ字」を複数使った場合 主たる切れ字を意識必要がある。季語にポイントを置く
べきである。声に出して読むとよい。「主たる切れ字」の節を若干、高めに読む。

<名句鑑賞>

雪解川名山けづる響かな(前田普羅)
作者は名山の山麓にいる。滔々と流れる雪解川を目にしている、流れの轟音は耳を
つんざく。この音は名山を削る音なのだをつくづく思うのだ。

<滑稽の作法>

嫁が君里帰りしてそれつきり(健)
「嫁が君」は正月三が日の「鼠」のことをいう。
「鼠」は人間に害を及ぼすから「忌み言葉」なのである。
この句は「嫁」に着目して、ドラマを作った。里帰りしたまんま。だと

「滑稽俳句協会報」から

混浴と知らず瞑目紅葉谷(杉村福郎)
いい加減に出ないとふやけるじゃんか

<八木健の 365 句>

かき氷どの部分からくずさうか

<山口誓子の 365 句>

巨き船出でゆき屋気楼となる

愚陀佛庵通信 10-02-27

<季語の蒔蓄(うんちく)>

片栗の花 かたくり 古名では 「堅香子」かたかご

明るい林の中に群落をつくるユリ科の多年草、愛らしい薄紫の花をつける 根からは片栗粉をつくる。片栗だけでは 粉と紛らわしいから「花」までつけて季語とする。

椿 白梅 百合 桜・・・季語では 大部分「花」までつけない。

<俳句豆知識>

俳句は、基本的には「季語を賛美する文芸」である。

なぜなのか、挨拶の詩だからである。なぜ「挨拶の詩」なのだろうか。

俳句のルーツは「俳諧の連歌の発句」だからである。なぜ 発句は「挨拶の句」なのか。発句は歌による座談会であり、発句は座談会の始まりの句だからである。なるほど座談会の冒頭は挨拶ではじまり、その日の季節的なことを言う。なぜ季節のことを言うのか。もっとも共通認識のできる話題だからである。寒くなりましたねえ・・・温くなりましたねえ。冒頭に「賛美する」と書きましたが「賛美」は季節の到来を喜んだからである。到来すると待ちに待った花も咲く、花が咲いたら実もつける・・・どれも嬉しいことなのである。

<名句鑑賞>

永き日を囀り足らぬ雲雀かな(松尾芭蕉)

季語がふたつありますが、「かな」のついている「雲雀」が中心の季語である。

句意は・・・日永であるのに雲雀はいつまでも鳴いていたい。それほど際限なく 雲雀は鳴くことよ。誇張の句である。滑稽の句である。

<滑稽の作法>

頬杖の何本も要る春愁(健)

「春愁」は「はるうれい」と読めば「傍題」基本の季語としては「しゅんしゅう」と読む。頬杖は一本しかつけない せいぜい二本だが、何本もとして「春愁」を強調したのである。

「滑稽俳句協会報」から

病院を今日は休んで日向ぼこ(前川敏夫)

待合室でみんなが心配・・・風邪かしら・・・と

<八木健の 365 句>

そこらぢゆうの光あつめて福寿草

<山口誓子の 365 句>

泣き濡るる眼にとまらむと蜂来る

